

横浜市 教員のキャリアステージにおける人材育成指標

平成22年2月策定
平成29年3月改訂

ステージ		資質・能力				
		横浜市が求める 着任時の姿	第1ステージ 実践力を磨き 教職の基盤を固める (学級・担当教科等)	第2ステージ 専門性を高め グループのリーダーと して推進力を発揮する (学年・分掌等)	第3ステージ 豊富な経験を生かし 広い視野で組織的な 運営を行う (学校全体)	
学 び 続 け る 教 職 専 門 性 教 員	教職の素養	自己研鑽・探究力	・常に自己研鑽に努め、探究心をもって自主的に学び続ける。			
		情熱・教育的愛情	・横浜を愛し、教職への誇りと強い情熱、児童生徒への愛情をもつ。			
		使命感・責任感	・教育公務員として、自己の崇高な使命を深く自覚し、法令及び「横浜市公立学校教職員行動基準」を遵守する。			
		人間性・社会性	・豊かな人間性や広い視野・高い人権感覚をもち、児童生徒や教職員・保護者・地域等との信頼関係を構築する。			
		コミュニケーション	・周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、積極的に助け合い支え合う。			
	児童生徒指導	児童生徒理解	・児童生徒理解の意義や重要性を理解し、一人ひとりに積極的に向き合おうとしている。	・一人ひとりの背景を意識して、児童生徒に向き合う。	・児童生徒を取り巻く環境を的確に捉え、一人ひとりの理解を図る。	・教職員相互で共通理解を図ることができるように、組織の環境を整える。
		児童生徒指導	・個や集団を指導するための手立てを理解し、実践しようとしている。	・保護者等の関係者や校内組織と連携しながら、個や場面に応じた指導を行う。	・関係機関等と連携して、学年全体の児童生徒指導を行う。	・様々な関係機関等と連携して環境を整え、適切な指導を推進する。
	インクルーシブ教育	多様性への理解とインクルーシブ教育システムの構築	・インクルーシブ教育の理念と基本的な考え方を理解している。	・児童生徒一人ひとりの特性や背景を把握し、適切な指導及び必要な支援を行う。	・児童生徒の多様性を理解し、共生を図るためにチーム学校としての組織的な支援や関係機関との連携を推進する。	・インクルーシブ教育システムの構築に組織的に取り組むとともに、関係機関や地域との連携を図り、学校からの発信を行う。
		特別支援教育	・特別支援教育に関わる指導・支援の計画や合理的配慮について理解している。	・児童生徒一人ひとりに応じた指導の計画を作成するとともに合理的配慮を重視した指導を行う。	・特別支援教育に関わる内容について、経験の浅い教職員の指導・支援を行う。	・校内委員会等で学校全体の視点で見直し、学校教育活動の改善を図る。
	授 業 専 門 性	実態把握と目標の明確化 (PLAN)	・学習指導要領を理解し、児童生徒の実態把握の必要性を認識し、目標を明確にして立案しようとしている。	・学習指導要領等を理解し、児童生徒の実態を把握したうえで目標を明確にする。	・学校の特色を考慮し、実現した姿を想定して目標を明確にする。	・地域の特色も考慮した実態把握を行い、各教科の目標設定に生かすための発信を行う。
		指導と評価の計画立案 (PLAN)	・評価全般の意義及び、評価規準、指導・評価計画の意味を理解し、立案しようとしている。	・評価の目的を理解し、指導と評価の計画を立てる。	・目標を実現するために、効果的な評価の機会を設定し、指導と評価の計画を立てる。	・校内の指導と評価の計画を把握し、的確な支援を行う。
		指導技術、指導形態の工夫 (PLAN)	・板書や発問等の基本的な指導技術を身に付け、実践しようとしている。	・「習得・活用・探究」の学習を重視し、学び合い等の場面を取り入れた授業の展開を計画する。	・身に付けた技術を生かし、思考力・判断力・表現力や意欲をさらに高める工夫をする。	・個や集団に応じた効果的な指導方法を工夫・選択し、発信を行う。
		授業中の指導と評価 (DO)	・「指導と評価の一体化」の意味を理解し、児童生徒の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	・集団の中の一人ひとりの学習状況を把握し、適切に指導・助言を行う。	・学習状況に応じて、適切に補充的・発展的な指導・助言を行う。	・学習状況を適切に評価し、状況に応じた効果的な指導方法で実践するとともに発信を行う。
		省察及び改善 (CHECK, ACTION)	・授業改善の意義や授業を分析し改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	・一人ひとりの学習状況を把握し、次時や次単元の指導に生かす。	・適切な授業評価を行い、継続的な授業改善に取り組むとともに自己の専門性向上に努める。	・自校の授業力向上に向けた取組の課題を明らかにし、年間指導計画等の改善を行う。
		研究の推進と研究体制構築	・研究会や研修会に積極的に参加する意義を理解し、実践しようとしている。	・校内研究会や他校の授業研究会に積極的に参加し、授業に生かす。	・校内研究会・校外研修会の企画・運営に携わり、授業力やマネジメント力の向上を図る。	・研修会で得た情報や自らの実践を広く情報発信して、自校の教育活動に生かす。
		学級経営・学校経営ビジョンの構築	・学級担任の役割と職務内容及び、学校組織・運営や校務分掌を理解し、自分にできることを実践しようとしている。	・学校教育目標を理解し、学級経営や教科経営の方針を立て、一貫性のある指導を行う。	・組織運営や教科経営に積極的に関わり、学校教育目標の実現に向けて工夫改善を行う。	・学校運営について創造的なビジョンの構想やプランの構築に参画し、教育活動を活性化させる。
	マ ネ ジ メ ン ト 力	人材育成(メンターチーム等の活動)	・学び続けることの意義を理解し、アドバイスを耳を傾け、自らを改善しようとしている。	・疑問点や悩みを相談したり、共有し合ったりしながら、自らの実践力を磨く。	・互いの課題や悩みに気付き、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援する。	・人材育成の重要性をふまえて、教職員の経験に応じた効果的な人材育成の環境をつくる。
資源(人・もの・情報・時間・資金等)の活用		・学校内外の資源の種類やその活用の目的・意義を理解し、実践しようとしている。	・身の回りの資源を積極的に教育活動に生かす。	・教育活動に効果的な資源を見極めて活用する。	・状況や課題にふさわしい活用方法を考え、教育活動全体の充実を図る。	
危機管理		・危機管理の重要性を理解し、危機を察知した場合に、素早い行動をとろうとしている。	・安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に実行する。	・危機を予測し連携して未然防止を図るとともに、早期発見、早期対応に努める。	・平常時の未然防止、抜本的改善、再発防止を組織的に推進する。	
同僚とチームでの対応		・組織の一員としての自分の役割を理解し、同僚と協力して対応しようとしている。	・組織の一員として教職員と積極的に関わり、求められている役割を理解して対応する。	・互いの良さを認め合い、それぞれの力を生かして対応する。	・組織の特性をふまえて、広い視野をもって対応力を高める。	
連携・協働力	保護者や他の組織等との連携・協働	・保護者連携の重要性を理解し、保護者や地域と積極的に関わろうとしている。	・保護者、地域と積極的に関わり、連携・協働して対応する。	・保護者、地域、関係機関との関わりを深め、連携・協働して対応する。	・保護者、地域、関係機関との連携・協働のネットワークを形成する。	

【養護教諭のキャリアステージにおける人材育成指標】

ステージ		資質能力				
		横浜市が求める 着任時の姿	第1ステージ 養護教諭としての 基盤を固める	第2ステージ 養護教諭としての専門性を高め教職員の リーダーとして推進力を発揮する	第3ステージ 豊富な経験を生かし 広い視野で組織的な 運営を行う	
養護教諭としての素養	自己研鑽・探究心	・常に自己研鑽に努め、探究心をもって自主的に学び続ける。				
	情熱・教育的愛情	・横浜を愛し、教職への誇りと強い情熱、児童生徒への愛情をもつ。				
	使命感・責任感	・教育公務員として、自己の崇高な使命を深く自覚し、法令及び「横浜市公立学校教職員行動基準」を遵守する。				
	人間性・社会性	・豊かな人間性や広い視野・高い人権感覚をもち、児童生徒や教職員・保護者・地域等との信頼関係を構築する。				
	コミュニケーション	・周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、積極的に助け合い支え合う。				
学び続ける 養護教諭の専門性	児童生徒指導	児童生徒理解	・児童生徒理解の意義や重要性を理解し、一人ひとりに積極的に向き合おうとしている。	・一人ひとりの背景を意識して、児童生徒に向き合う。	・児童生徒を取り巻く環境を的確に捉え、一人ひとりの理解を図る。	・教職員相互で共通理解を図ることができるように、組織の環境を整える。
		児童生徒指導	・個や集団を指導するための手立てを理解し、実践しようとしている。	・保護者等の関係者や校内組織と連携しながら、養護教諭として、個や場面に応じた指導を行う。	・関係機関等と連携して、養護教諭として全校の児童生徒に対し組織的に指導にあたる。	・様々な関係機関等と連携して環境を整え、養護教諭として、適切な指導を推進する。
	専門領域における主な職務内容	保健管理	・学校保健安全法を理解し、児童生徒の実態把握の必要性を認識し、適切な保健管理を実施しようとしている。	・児童生徒の発達の段階に応じてよく見られる心身の疾病や障害を理解し、健康課題を把握し、適切に対応できる。	・保健管理について指導的立場を果たすとともに、保健情報を総合的に評価し、把握した健康課題の解決に向けて、組織的対応ができる。	・学校における事件事故・災害に備えた救急体制や心のケアの支援体制を整えるなど、保健安全について学校運営に参画することができる。
		保健教育	・学習指導要領を理解し、養護教諭の専門性を生かした指導をしようとしている。	・保健教育における養護教諭の役割を理解した上で、学級担任等と連携し、養護教諭の専門性を生かした保健教育ができる。	・学習指導要領、児童の実態に基づいた保健教育を実践、評価、改善し、効果的に推進できる。	・保健安全教育について教育課程の編成・実践・評価を通して全体計画を作成できる。
		健康相談	・学校保健安全法による健康相談の位置づけを理解し、心身の発達の段階における健康課題に対応しようとしている。	・健康相談の基本的なプロセスを理解し、児童生徒の心身の発達の段階の課題や現代的な健康課題との関連を踏まえた、健康相談を実施することができる。	・心身の健康課題を総合的にとらえ、校内支援体制の充実に努めるとともに、学校医等の専門職や保護者と連携し、健康課題について適切な対応ができる。	・心身の健康問題に関して教職員に対し、指導的役割を果たすことができる。
		保健組織活動	・保健組織活動の意義と学校保健に関する学校内外の協力体制の重要性を理解しようとしている。	・保健組織活動の意義を理解し、企画運営に参画できる。	・保健組織が主体的に活動できるよう内容の工夫、改善を図ることができる。	・近隣の小中学校と連携し、地域レベルでの健康づくりを推進することができる。
		研究の推進と研究体制構築	・研究会や研修会に積極的に参加する意義を理解し、実践しようとしている。	・校内研究会や市内の研究会に積極的に参加し、保健室経営に生かす。	・校内研究会・校外研修会の企画・運営に携わり、養護教諭としての知識・能力・マネジメント力の向上を図る。	・研修会で得た情報や自らの実践を広く情報発信して、自校の教育活動に生かす。
	マネジメント力	保健室経営・学校経営ビジョンの構築	・養護教諭の役割と職務内容及び、学校組織・運営や校務分掌を理解し、自分にできることを実践しようとしている。	・学校教育目標を理解し、保健教育や保健室経営の方針を立て、一貫性のある指導・運営を行う。	・養護教諭として、全校組織運営や保健指導充実に積極的に関わり、学校教育目標の実現に向けて工夫改善を行う。	・学校運営について創造的なビジョンの構想やプランの構築に参画し、教育活動を活性化させる。
		人材育成（メンターチーム等の活動）	・学び続けることの意義を理解し、アドバイスに耳を傾け、自らを改善しようとしている。	・疑問点や悩みを相談したり、共有し合ったりしながら、自らの実践力を磨く。	・互いの課題や悩みに気付き、支え合える環境をつくるとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援する。	・人材育成の重要性をふまえ、養護教諭として、教職員の経験に応じた効果的な人材育成の環境をつくる。
		資源（人・もの・情報・時間・資金等）の活用	・学校内外の資源の種類やその活用目的の意義を理解し、実践しようとしている。	・身の回りの資源を積極的に教育活動に生かす。	・教育活動に効果的な資源を見極めて活用する。	・状況や課題にふさわしい活用方法を考え、教育活動全体の充実に図る。
連携・協働能力	危機管理	・危機管理の重要性を理解し、危機を察知した場合に、素早い行動をとろうとしている。	・安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に実行する。	・危機を予測し連携して未然防止を図るとともに、早期発見、早期対応に努める。	・平常時の未然防止、抜本的改善、再発防止を組織的に推進する。	
	同僚とチームでの対応	・組織の一員としての自分の役割を理解し、同僚と協力して対応しようとしている。	・組織の一員として教職員と積極的に関わり、求められている役割を理解して対応する。	・互いのよさを認め合い、それぞれの力を生かして対応する。	・組織の特性をふまえ、広い視野をもって対応力を高める。	
連携・協働能力	保護者や他の組織等との連携・協働	・保護者連携の重要性を理解し、保護者や地域と積極的に関わろうとしている。	・保護者、地域と積極的に関わり、連携・協働して対応する。	・保護者、地域、関係機関との関わりを深め、連携・協働して対応する。	・保護者、地域、関係機関との連携・協働のネットワークを形成する。	

【学校栄養職員・栄養教諭のキャリアステージにおける人材育成指標】

ステージ	横浜市が求める 着任時の姿	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ		
		学校栄養職員としての 基盤を固める	学校栄養職員としての 専門性を高める	豊富な経験を生かし 広い視野で組織的な 運営を行う		
資質能力		栄養教諭				
職員としての 素養	自己研鑽・探究心	・常に自己研鑽に努め、探究心をもって自主的に学び続ける。				
	情熱・教育的愛情	・横浜を愛し、教職への誇りと強い情熱、児童生徒への愛情をもつ。				
	使命感・責任感	・学校教育にかかわる公務員として、自己の崇高な使命を深く自覚し、法令及び「横浜市公立学校教職員行動基準」を遵守する。				
	人間性・社会性	・豊かな人間性や広い視野・高い人権感覚をもち、児童生徒や教職員・保護者・地域等との信頼関係を構築する。				
	コミュニケーション	・周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを適切に伝え、積極的に助け合い支え合う。				
学び 続ける 学校 職員	学校栄養職員・栄養教諭としての知識・能力 食育	(児童生徒理解)	・児童生徒理解の意義や重要性を理解し、一人ひとりに積極的に向き合おうとしている。	・一人ひとりの背景を意識して、学校栄養職員として児童生徒に向き合う。	・児童生徒を取り巻く環境を的確に捉え、一人ひとりの理解を図る。	・教職員相互で共通理解を図ることができるように、組織の環境を整える。
		(児童生徒指導)	・個や集団を指導するための手立てを理解し、実践しようとしている。	・保護者等の関係者や校内組織と連携しながら、個や場面に応じた指導を支援する。	・関係機関等と連携して、学校全体の児童生徒指導を栄養教諭・学校栄養職員との立場から支援する。	・様々な関係機関等と連携して環境を整え、組織的な児童生徒指導を推進する。
		栄養管理	・学校給食の役割について理解し、適切な栄養管理を実施しようとしている。	・学校給食栄養摂取基準に基づき、食品構成を考慮した献立を作成する。学校給食の調理、配食および施設設備に関し、指導、助言を行う。	・学校給食栄養摂取基準に基づき、食品構成を考慮した献立を作成する。また、学校の特色に応じた独自献立を行う。学校給食の調理、配食および施設設備に関し、各校に応じた指導、助言を行う。	・学校給食における献立作成や学校給食の調理、配食および施設設備に関し、各校や全市において指導的立場を果たすことができる。
		衛生管理	・衛生管理の重要性について理解し、適切な衛生管理を実施しようとしている。	・横浜市安全衛生総合マニュアルに基づき、調理従事者の衛生、施設設備の衛生及び食品衛生の適正を期するため、日常点検及び指導、助言を行う。	・学校給食衛生管理基準や横浜市安全衛生総合マニュアルを理解し、調理従事者の衛生、施設設備の衛生及び食品衛生の適正を期するため、日常点検等に関する及び指導、助言を行う。	・衛生管理に関して、各校や全市において指導的立場を果たすことができる。
		栄養相談	・児童の実態把握の必要性を認識し、個に応じた栄養相談に応じようとしている。	・栄養相談の基本的なプロセスを理解し、食物アレルギー等個々の児童の状況に応じて、保護者と連携し、健康課題について適切な対応ができる。	・専門職として身に付けた技術を生かし、食に関する課題を総合的にとらえ、職員や保護者と連携し、適切な対応ができる。	・食物アレルギー等児童の健康課題に関して教職員に対し、指導的役割を果たすことができる。
		調査研究等	・研究会や研修会に積極的に参加する意義や、児童・生徒の実態を把握するための調査の意義を理解し、実践しようとしている。	・児童・生徒の実態把握や校内研究会や校外の研究会に積極的に参加し、学んだことを生かして給食室経営や食育に取り組もうとする。	・校内研究会・校外研修会の企画・運営に携わり、栄養教諭・学校栄養職員としての知識・能力・授業力の向上を図ったり、児童・生徒の実態調査を学校全体の食育の取組に生かしたりすることができる。	・研修会で得た情報や自らの実践を広く情報発信して、自校の教育活動に生かす。
		栄養職員	・学校栄養職員の専門性を生かした指導をしようとしている。	・食育全体計画を理解し、各学年・クラスの食に関する課題を把握し、給食指導や教科等における食育に生かす。	各学年・クラスの食に関する課題を把握し、給食指導や学習指導要領に基づいた教科等における食育に生かす。また、地域の特色を生かした食育を行う。	・自校の食育推進に向けた取組の課題を明らかにし、食育全体計画等の改善を組織的に行う。また、学校の特色を生かした食育を家庭、地域と連携して行う。
		栄養教諭	【食育全体計画立案と推進】 児童・生徒の実態や学校教育目標をもとに、食育全体計画を立案、推進しようとしている。また、ネットワーク校への食育に意欲的に取り組もうとしている。		各学年・クラスの食に関する課題を把握し、給食指導や学習指導要領に基づいた教科等における食育に生かす。また、地域の特色を生かした食育を行う。	・食に関する指導に関わる教科等の学習指導要領や学校の特色を理解し、実現した姿を想定して食育を推進する。また、ネットワーク校における食育の取組について働きかける。
		栄養教諭	【教科等における食に関する指導内容と評価の計画】 教科等の特色やねらいを知り、専門的な立場から各教科等の指導と評価の計画に参画しようとしている。		・教科等の特色やねらいを知り、指導と評価の計画を共有する。	・専門的な立場から授業に関わるために、教職員と連携して教科等のねらいを達成するための指導内容、評価の計画を行う。
		栄養教諭	【発達段階や実態に応じた指導技術、指導形態の工夫】 児童・生徒の発達段階に応じた指導技術を身に付け、専門的な立場から教育効果を高める役割を担おうとしている。		・集団や個の食に関する課題を把握し、発達段階に応じた指導を行う。	・集団や個の食に関する課題や発達段階に応じた指導について、食育のねらいが達成できたか適切な評価・分析を行い、食育全体計画および食育の年間指導計画の見直しに生かす。
栄養教諭	【研究の推進】 研究会や研修会において、食育推進担当として積極的に研究推進しようとしている。		・自らの指導力及び授業力を向上するために、給食指導及び授業研究に積極的に取り組む、食育推進担当としての資質を培う。	・校内研究会・校外研修会の企画・運営に携わり、食育推進を担う栄養教諭としての知識・能力・授業力・マネジメント力の向上を図る。		
マネ	給食経営・学校経営ビジョンの構築	・学校栄養職員の役割と職務内容及び、学校組織・運営や校務分掌を理解し、自分ができることを実践しようとしている。	・学校教育目標を理解し、給食業務や食育指導の方針を立て、一貫性のある指導・運営を行う。	・栄養教諭・学校栄養職員として、全校組織運営や食育指導推進に積極的に関わり、学校教育目標の実現に向けて工夫改善を行う。	・学校運営について創造的なビジョンの構想やプランの構築に参画し、教育活動を活性化させる。	
ジ	人材育成（メンターチーム等の活動）	・学び続けることの意義を理解し、アドバイスに耳を傾け、自らを改善しようとしている。	・疑問点や悩みを相談したり、共有し合ったりしながら、自らの実践力を磨く。	・互いの課題や悩みに気づき、支え合える環境をつくることともに、栄養教諭・学校栄養職員との立場から、経験の浅い教職員を積極的に支援する。	・人材育成の重要性をふまえ、栄養教諭・学校栄養職員の立場から、教職員の経験に応じた効果的な人材育成の環境をつくる。	
メ	資源（人・もの・情報・時間・資金等）の活用	・学校内外の資源の種類やその活用の目的・意義を理解し、実践しようとしている。	・身の回りの資源を積極的に教育活動に生かす。	・教育活動に効果的な資源を見極めて活用する。 ・地場産物等を活用する。	・状況や課題にふさわしい活用方法を考え、教育活動全体の充実を図る。 ・地場産物等の活用から地域連携を図る。	
ント	危機管理（安全・衛生管理）	・危機管理の重要性を理解し、危機を察知した場合に、素早い行動をとろうとしている。	・横浜市安全衛生総合管理マニュアル等を理解し、安全や衛生に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に実行する。	・横浜市安全衛生総合管理マニュアル等をもとに、危機を予測し連携して未然防止を図るとともに、早期発見、早期対応に努める。	・平常時の未然防止、抜本的改善、再発防止について発信し、組織的に推進する。	
力	連携・協力	同僚とチームでの対応	・組織の一員としての自分の役割を理解し、同僚と協力して対応しようとしている。	・組織の一員として、教職員と積極的に関わり、求められている役割を理解して対応する。	・互いのよさを認め合い、それぞれの力を生かして対応する。	・組織の特性をふまえ、広い視野をもって対応力を高める。
カ	保護者や他の組織等との連携・協働	・保護者連携の重要性を理解し、保護者や地域と積極的に関わろうとしている。	・保護者、地域と積極的に関わり、連携・協働して対応する。	・保護者、地域、関係機関との関わりを深め、連携・協働して対応する。	・保護者、地域、関係機関との連携・協働のネットワークを形成する。	